

YES JAPAN 体験談

山下真理子

法政大学 人間環境学部 人間環境学科 3 年生
YES JAPAN 2009 に参加



目の前に広がっていたものが、未来でした。手の届く所に、世界がありました。たった 2 週間で、何かがストーンと落ち、笑顔で前を見つめることができるようになった自分に気がつきました。

YES JAPAN で語られた **sustainability** は、どこかの誰かの、漠然とした問題ではありません。世界中の友人が、自分の問題として、今、自分にできることを、自分たちだからこそできることを真剣に語り合っていました。そして、歌って踊って大声で笑って、日本酒を水のように飲みほして、彼らは全てに苦戦している私にすら、手を差し伸べてくれました。「真理子は、どうしたい？」

決して楽なプログラムではありません。課題の意図に納得したときにはもう終盤で、次の課題への準備に移っていましたし、日本について答えられず悲しげな顔にさせたことも多々ありました。毎日新しいことに触れ、自分の無力さを実感しました。そんな中、何も分からない私に、明け方まで 6 時間も話をきいてくれたネパールの友人。こんなに魅力的だよ！と、長所を並べてくれたブラジルの友人。落ち込む私の目をまっすぐに見ながら、部屋でなぐさめてくれたコロンビアの友人。ヒーローを絵にかいたような人達が実在するこの世界で、一体、私達にできないことなどあるのでしょうか。

「つながりは、終わらない」

最終日に、寂しさから涙が止まらない中頂いた言葉です。たった一步踏み出すだけで、友人と、世界と、未来とつながることができます。自分の手で世界の未来を変えることができることを知った今、どんなに辛くても、一つ一つの行動が、全ての取り組みが、嬉しくて、楽しくて仕方ありません。YES JAPAN は、空を見上げるだけで笑みのこぼれてしまうような毎日を与えてくれると、強く信じています。

(2009 年 11 月 30 日)

